

■研究推進委員会 2024 年度 活動報告書

提出日：2025 年 3 月 26 日

名 称	風景計画 研究推進委員会																								
委員長	氏名（所属）：伊藤弘（筑波大学）																								
幹 事	氏名（所属）：矢澤優理子（東京大学） 連絡先（e-mail アドレス）：yyuriko@csis.u-tokyo.ac.jp																								
その他 構成員	氏名（所属）： <table border="0"> <tr> <td>松島肇（北海道大学）</td> <td>栗田英治（農研機構）</td> </tr> <tr> <td>上田裕文（北海道大学）</td> <td>古谷勝則（千葉大学）</td> </tr> <tr> <td>温井亨（東北公益文科大学）</td> <td>寺田徹（東京大学）</td> </tr> <tr> <td>入江彰昭（東京農業大学）</td> <td>渡部陽介（清水建設技術研究所）</td> </tr> <tr> <td>町田怜子（東京農業大学）</td> <td>松井孝子（ブラック研究所）</td> </tr> <tr> <td>小島周作（メッツ研究所）</td> <td>山本清龍（東京大学）</td> </tr> <tr> <td>小林昭裕（専修大学）</td> <td>上原三知（信州大学）</td> </tr> <tr> <td>伊藤弘（筑波大学）</td> <td>水内佑輔（東京大学）</td> </tr> <tr> <td>高山範理（森林総合研究所）</td> <td>村上修一（滋賀県立大学）</td> </tr> <tr> <td>小田龍聖（森林総合研究所）</td> <td>武田重昭（大阪公立大学）</td> </tr> <tr> <td>田中伸彦（東海大学）</td> <td>濱久保衛（UR リンケージ）</td> </tr> <tr> <td>高瀬唯（茨城大学）</td> <td>鴨志田隼輔（鴨志田造園建設）</td> </tr> </table>	松島肇（北海道大学）	栗田英治（農研機構）	上田裕文（北海道大学）	古谷勝則（千葉大学）	温井亨（東北公益文科大学）	寺田徹（東京大学）	入江彰昭（東京農業大学）	渡部陽介（清水建設技術研究所）	町田怜子（東京農業大学）	松井孝子（ブラック研究所）	小島周作（メッツ研究所）	山本清龍（東京大学）	小林昭裕（専修大学）	上原三知（信州大学）	伊藤弘（筑波大学）	水内佑輔（東京大学）	高山範理（森林総合研究所）	村上修一（滋賀県立大学）	小田龍聖（森林総合研究所）	武田重昭（大阪公立大学）	田中伸彦（東海大学）	濱久保衛（UR リンケージ）	高瀬唯（茨城大学）	鴨志田隼輔（鴨志田造園建設）
松島肇（北海道大学）	栗田英治（農研機構）																								
上田裕文（北海道大学）	古谷勝則（千葉大学）																								
温井亨（東北公益文科大学）	寺田徹（東京大学）																								
入江彰昭（東京農業大学）	渡部陽介（清水建設技術研究所）																								
町田怜子（東京農業大学）	松井孝子（ブラック研究所）																								
小島周作（メッツ研究所）	山本清龍（東京大学）																								
小林昭裕（専修大学）	上原三知（信州大学）																								
伊藤弘（筑波大学）	水内佑輔（東京大学）																								
高山範理（森林総合研究所）	村上修一（滋賀県立大学）																								
小田龍聖（森林総合研究所）	武田重昭（大阪公立大学）																								
田中伸彦（東海大学）	濱久保衛（UR リンケージ）																								
高瀬唯（茨城大学）	鴨志田隼輔（鴨志田造園建設）																								
今年度 活動報告 成果	<p>1. 2024 年度日本造園学会全国大会ミニフォーラム開催</p> <p>2024 年度全国大会において、企画フォーラム「風景計画は農村の持続的発展にどう寄与できるか？」を開催した。近年、農村における生業や農村の構成員を含めた社会システムが著しく変化する中で、風景と風景計画は農村社会にどう寄与しうるのかを議論した。風景計画の分野で従来行われてきた農村ランドスケープを具体化・可視化する研究成果について、委員内外の研究者から話題提供をいただいたうえで討議を行い、農村の維持管理に関わる時空間的な要素の連関、農村を取り巻く制度や人間の内面的な側面など、物理的には目に見えないものにも目を向ける必要があるとの示唆を得ることができた。フォーラムには学生や実務者にもご参加いただき、今後の風景計画や風景づくりの実践について活発な議論がなされた。</p> <p>【フォーラム内容】</p> <p>趣旨説明：矢澤優理子</p> <p>話題提供 1：栗田英治（農研機構）</p> <p>話題提供 2：高橋俊守（宇都宮大学）</p> <p>話題提供 3：真田純子先生（東京工業大学）</p> <p>討議：造園/ランドスケープに関わる研究者や市民が、どう農村に向き合っていくべきかを 3 名の登壇者および会場全体で議論した。</p> <p>2. ランドスケープ研究にて「やさしい風景計画」を連載</p> <p>ランドスケープ研究に連載している「やさしい風景計画学」を本年度も継続した。3 年目となる本年は、「目標像を実現させるための方策」、「風景と地区（メソ）スケールのデザイン」、「風景計画におけるデザイン」、「風景を守り活用するマネジメント」の 4 つのテーマについて、研究者・実務者からの報告記事を掲載した。</p>																								